

1 バックアップとカバーリング

新入生32名が入学し、9名の職員が着任し令和8年度がスタートしました。誰一人取り残すことなく、全員で年度末を迎えたいと思っています。

しかし、時には体調を崩したり、いろいろな事情で登校や出勤ができなかったりすることや初めてで慣れないため失敗することもあります。

野球の守備では「バックアップ」と「カバーリング」というチームにとって不可欠な連携プレーがあります。カバーリングは野手がベース(塁)を離れた際、空いたベースに入って送球を受けたり、ボールを処理したりすることで、学校においては『それは私の仕事ではありません』と言わず、空いた穴を誰かが埋めることで業務の継続性が保たれる組織であること。

バックアップはプレーする野手の後方に回り込み、送球が逸れたり、エラー(捕球ミス)したりした際の「保険」となる役割のことで、学校においては、誰かがミスした時、『あいつが悪い』と指摘したり関係ないと傍観したりするのではなく、即座にフォローに動ける組織であること。

「バックアップ」と「カバーリング」が機能する組織を目指して、生徒も職員も安心して安全に過ごすことができる学校づくりを目指したいと思います。

毎日朝早く(勤務時間前から)自主的に登校指導していた生徒指導主事が異動になりましたが、生徒支援部で取り組みを継続してくれています。まさにカバーリングです。

2 不登校

我が国の教育課題の一つに不登校があります。児童生徒数は減少しているにもかかわらず、不登校の児童生徒数は増加の一途をたどっており、特別支援学校においても課題の一つとなっています。

本校は様々な中学校や特別支援学校中学部から本校を選んで受検をして入学してきます。小学校時代から不登校になり、中学校は出席日数0日の生徒が入学し、1年次の欠席日数0日、遅刻0日という生徒がいます。中学校まではゲーム依存による不登校が続いていたということなのです。本校に入学し部活動にも所属し人間関係が広がっています。

なぜ不登校になるのか、その原因は十人十色です。

本校への入学をきっかけに、心機一転、これまでの気持ちや心の持ちようを前向きに切り替えることができる場合があります。これまで不登校で悩んでいた生徒にとって校名にふさわしく希望が持てる学校であること、そのような生徒が一人でもいることをとても嬉しく感じます。